

山^{やま}鳥^と坂^{さか}ダム 事業等の点検について

平成２３年３月１５日
国土交通省 四国地方整備局

1. 山鳥坂ダム 事業等の点検の考え方 ①

○ 点検の趣旨

- ・点検は、今回の検証のプロセスに位置づけられている「検証対象ダム事業等の点検」の一環として実施。
- ・現在保有している技術情報等の範囲内で、今後の事業の方向性に関する判断とは一切関わりなく、現在の事業計画を点検するもの。
- ・予断を持たずに検証を進める観点から、ダム事業の点検及び他の治水対策（代替案）のいずれの検討にあたっても、さらなるコスト縮減や工期短縮など期待的要素は含まない。
- ・検証の結論に沿っていずれの対策を実施する場合も、実際の施工に当たってはさらなるコスト縮減や工期短縮に対して最大限の努力をする。

○ 総事業費の点検の考え方(案)

- ・平成16年度に算出した現在の総事業費を対象に、それ以降、平成21年度迄の調査検討結果及び設計成果を基に、事業の数量や内容・工事単価を精査するとともに、平成22年度単価による確認を実施。
- ・平成21年度末までの実施済額については、契約実績を反映。
- ・残事業の数量や内容については、今後の変動要素を分析評価。
- ・検証による中断・遅延によるコスト（水理・水文観測、環境モニタリング等の継続調査、工事諸費、借地料などは年数の経過とともに増額）を点検。

1. 山鳥坂ダム 事業等の点検の考え方 ②

○工期の点検の考え方(案)

- ・直近の事業再評価（平成21年8月）に提示した工期（平成35年度）を対象。
- ・この点検においては、検証の完了時期を平成24年度予算に反映できる時期と仮定し、残事業の完了までに必要な期間を加えて、確認を実施。
- ・工事の工程については、本体工事着手に向けた付替県道から先行して着手し、本体工事については必要な期間を確保することを想定。
- ・環境影響評価書に掲げた環境保全措置や配慮事項については、工事等の進捗に合わせて適正に実施できることを想定。

○堆砂計画の点検(案)

- ・計画堆砂容量は、平成14年までの基礎データを用いて算定。この基礎データを直近年（平成22年）まで延伸して点検。

2. 山鳥坂ダム 雨量、流量データの点検の考え方

○ 雨量、流量データの点検の考え方(案)

計画の策定に用いられた雨量データ、流量データについては、観測された記録、月表や年表、データベース、計算に用いたデータ等、存在している資料を収集し、観測誤差の有無、データの誤記について出来る限り点検を行う。

なお、点検の対象とする実績洪水は、次のとおりとする。

- ・ 計画の検討に用いている洪水
- ・ その他近年の代表洪水

(1) 雨量データ

- ・ 雨量観測データについて、観測記録、月表や年表等のデータ記載資料の点検を行い、データの間違いや修正の必要性を確認する。
- ・ 対象洪水毎に、等雨量線図や各地点データの比較を行い、近傍観測所との観測値の極端な違いや時間的ズレの有無を確認し、極端な乖離があり、異常と見られる地点データ・対象洪水について抽出し、点検を行う。
- ・ 確認の際、日雨量と時間雨量の両方が存在する観測地点・洪水の場合には、データの整合性(日雨量＝時間雨量の合計値)も確認する。

(2) 流量データ

- ・ 流量観測データについて、流量計算書、断面計算書、観測所横断図等のデータ記載資料の点検を行い、データの間違いや修正の必要性を確認する。
- ・ 流量データは、各観測地点における年間の流量観測値を基に、水位と流量の関係を近似する(H-Q式)ことにより、水位データから流量に換算している。このため、点検の対象とする洪水について、水位観測値と流量観測値の整合性を確認する。